

## <SINSE ReVIEW No.3 抄録>

### 単極モーター:相対論的エンジン ヴェルヴェルデら コンフルエンシア工業大学(アルゼンチン)

本論文では、単極マシンに関わる力学的力の源を突き止めることを可能にする実験について述べる。著者らの最近の研究論文「単極ダイナモーター:真の相対的エンジン」[3]において、「関係的(relational)」ということの意味は、「絶対的に相対論的(absolutely relativistic)」ということである」という主張を行ったが、本論文においては、その主張を基盤とするヴァリエーションの中で適切なものを提示する。19世紀における電磁力学的諸現象における相対運動の重要性についてのウェーバーの認識[4]、および1905年のアインシュタインの電磁気学に関する発表[5]と対比するとき、その内容は著者らの見解あるいは考え方と一致する。

### LUTEC1000 – 第2部 オーストラリアの超効率発電機 Lutec社

前号No.2掲載同タイトル第1部の続きである。

### ブラウンガ斯特集2 ジョージ・ワイズマン

前号No.2掲載同タイトル第1部続きである。

<抄録再掲>ブラウンガスに関する現行の理論によれば、「ブラウンガスは、水素および酸素に関する二原子体と単原子体の混合体である」と説明されている。ブラウンガス Book One には、そのことについて詳述されているが、ここではその要点にのみ触れる。ブラウンガスを作成するためのもっとも簡単な方法は、電解装置を用いて電気でも水をその構成元素である水素と酸素に分ける方法である。水が分離された直後の瞬間においては、水素と酸素は単原子状態にある。すなわち水素はHおよび酸素はOである。

通常の電解装置は、それらの水素および酸素がそれぞれ二原子状態に落ち着くことを奨励する。二原子状態とは、水素についてはH<sub>2</sub>、酸素についてはO<sub>2</sub>のことである。二原子状態はエネルギー的には低い状態であり、そのエネルギーの差が電解装置内において熱として現れる。この熱はその時点では炎には供給されない。

ところで、これらのHおよびO原子の中のかなり多数が二原子分子に再形成されないとした場合は、どうなるのか?電解法による水を分離するプロセスを442.4 Kcal/モルのエネルギーを加えて開始させる。これは、吸熱反応である。しかし、もし二原子分子への再結合プロセスがゼロまたは僅少であるならば、そのときは電解装置の温度は上昇しないであろう。なぜならば、気泡による流体の攪拌作用以外には余剰熱をもたらす発熱反応が存在しないからである。

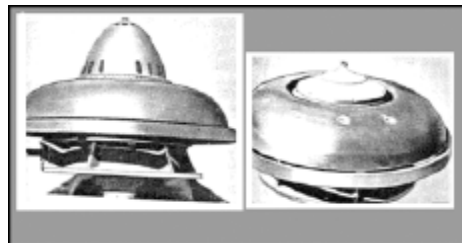
その電解装置からは、通常の電解装置に関して合理的に予測される量を遥かに凌ぐ実質的にかなり大体積のガスが生成されるであろう。同じ重量の水が電解されて二原子分子になった場合に比べて、単原子分子は2倍の体積を占めるからである。

### シャウバーガー装置の再来? 第2部 ユージン・アルセンティエフ (ロシア)

前号No.2掲載同タイトル第1部続きである。

<抄録再掲> 本記事には、著者によって実際に設計された航空機エンジン(aircraft engine)に関する概要を記す。そのデザインは、必ずしもシャウバーガーのそれとまったく同一であるとは云えないかも知れないが、その考え方自体にはかなり人々の関心と呼ぶものがあると信ずる。異なる場所、異なる時間帯に住む人々が、同じような結論に至るということは、つまるところ人々の考え方にはそれ程違いはないということなのか、あるいは自然の法則が共通であるということであろう。著者がこの研究を開始する時点でシャウバーガーの研究

成果に関する資料の存在を聞き及んでいなかった。したがって当然それらを一切読んでいなかった。(この点は、読者各位に信じてもらえるかどうか懸念されるところである。また、そのシャウバーガー研究成果とは、環境エネルギーで作動し、浮揚性能を持つエンジンのことを指している。)しかし、インターネットのお陰で偶然に



もある日そのデザインに関する情報に出会い、シャウバーガーの考えと著者の仮説の間に非常に多くの点において共通点があることを知り驚いた。シャウバーガーのエンジンの外見は、下のようなものである(図1参照)：

## SmCo リング磁石の反撥磁場と重量損失 C. シンプソン New Horizons Research

この一連の実験の目的は、二つの永久磁石の同一極性を持つ面を強制的に対向させるとき、磁石の重量変化が起きるかどうかを実験的に調べた。各磁石の重量は、その磁気極性軸が水平方向および鉛直方向を向いた二つの状態について測定された。二つの磁石(磁石1および磁石2)の水平および鉛直各方向に関する重量合計が、ダイアグラム1に示すようなナイロン製ボルトおよびウイングナットを用いて組立てられたとき記録された重量測定値と比較された。実験に使用されたサマリウム・コバルト磁石のスペックもダイアグラム1に示されている。

—END—

